

# 私立探偵 K-FILE

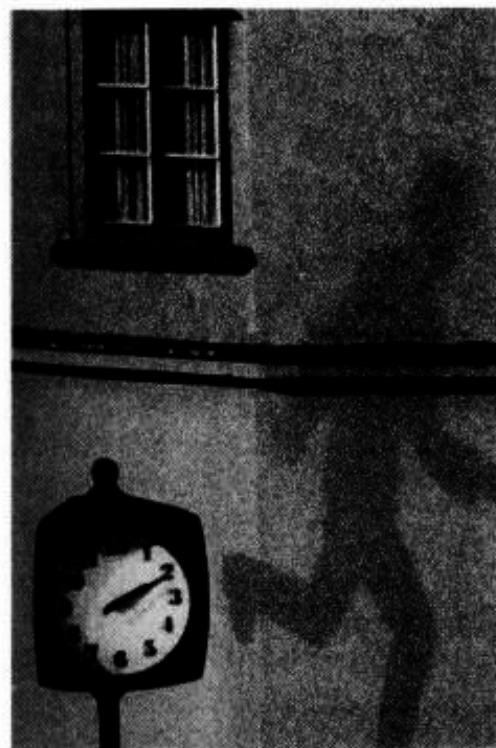
## 盗聴横査 case#7

東京、ニューヨーク、ロサンゼルスで  
経験した出来事を赤裸々に語る連載！  
私立探偵ケンジの実話体験「調査日誌」

日本では某金融業者による探偵を使った盗聴事件が取り沙汰されている。日本でもアメリカでも探偵が絡んだ不法盗聴が後を絶たないが、仕掛けられた盗聴器を発見する作業もまた我々の重要な業務である。

### 【プロフィール】

ケンジ yamakenusa@aol.com  
神奈川県出身。ニューヘイブズ大学、  
大学院上級捜査コース修了。日本の  
危機管理会社で探偵・ボディガード  
業務に従事した後、本場の技術を  
学ぶために渡米。ニューヨークの探  
偵社にて経験を積む。その後カリフ  
ォルニアに移り、私立探偵ライセン  
ス取得。現在はLAを拠点に調査業  
を展開中。



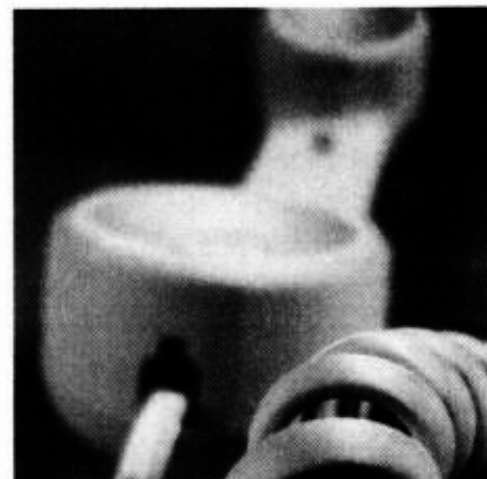
一般家庭からの盗聴検査の依頼のほとんどは依頼人の思い過ごしによるものだ。というよりも、病的とも言える被害妄想というのが実際のところであり、こういった調査は依頼人に安心感を与える意味合いが強い。しかしながら、オフィスにおける検査の場合、盗聴器が見つかることは珍しいことではない。コンピューター関連のA社で行った盗聴検査もそんなケースの一つだった。現在は倒産してしまったA社だが、当時はコンピューター業界で急成長し、注目を浴びていた企業であった。この会社とは新規従業員の経歴調査で以前から付き合いがあり、そんな訳で何か、きな臭い兆候があると私に連絡をくれるような間柄であった。「どうも内部情報が漏れている

ようなのですが…」電話でこう切り出してきた担当のS氏に対し、私は社外の公衆電話を使って掛け直すよう指示した。当然ながら盗聴の可能性を危惧してのことである。話を伺ってみると、流出した情報は会議室からのものがほとんどであり、その近辺に盗聴器が仕掛けられていると考えられた。

盗聴検査を受件した我々は会議室だけではなく、電話回線や従業員の休憩室も調査を行った。本音が飛び交う休憩室での会話は敵対企業にとっては宝の山だからだ。盗聴器には有線式と無線式がある。前者は電波を発しないので発覚し難い反面、直接イヤホンで会話を盗み聞きするか、コードの先に録音テープを設置しておかなければならないという欠点がある。後者は離れた場所で音声を拾うことが出来るが、盗聴電波から装置自体が発見されやすい。従って、有線式の盗聴器は視覚にて、無線式の場合は特殊な電波探知機を使って調査を行う。

全てのコミュニケーションは筆談で行い、調査を開始して数10分経った頃だろうか。突然電波探知機が反応した。市販されている盗聴器が最も使用している周波数帯である。電波の強度を確認しながら場所を特定していくと、会議室角のコンセントに辿り着いた。立ち会っているA社の幹部も息を呑んで見守っている。アシスタントに一部始終の写真を撮らせながらコンセントのカバーを外してみると、「(あった…)。」中には見慣れた黒い盗聴器が設置されていた。この手の装置は一般に広く出回っており、いわゆるプロの産業スパイや政府諜報機関は使用しない。せいぜい金に目がくらんだ三流探偵の仕事だろう。といっても一企業の会議室に侵入するのは簡単な

ことではなく、内通者の協力があったに違いない。仕掛けられた装置をそのままにしておいて、装置やテープを回収しに来る犯人を待ち伏せる方法もあるが、今回の盗聴器は電源をコンセントから供給出来、また、電波式であるためテープ回収の必要がない。そのような理由で我々は装置を即座に撤去した。電話回線やその他の場所からは不審な装置は見られなかった。



盗聴業界の技術は凄まじく進歩しつつある。電波探知機がサーチしないような周波数に会話を乗せるものや、室内の会話を窓ガラスの振動から復元するレーザー式の盗聴器もある。しかし、このような高価な装置を使って盗聴を行うのは資金が豊富な政府関係、またはターゲットである情報に著しく経済価値がある場合である。情報のレベルや難易度によって盗聴器のグレードが決まり、それによって発見するための手段も異なってくる。盗聴検査には電気通信の理解や仕掛ける側のMOIに関する知識が不可欠であり、決して盗聴発見器を使えば事足りるといったものではないのである。